

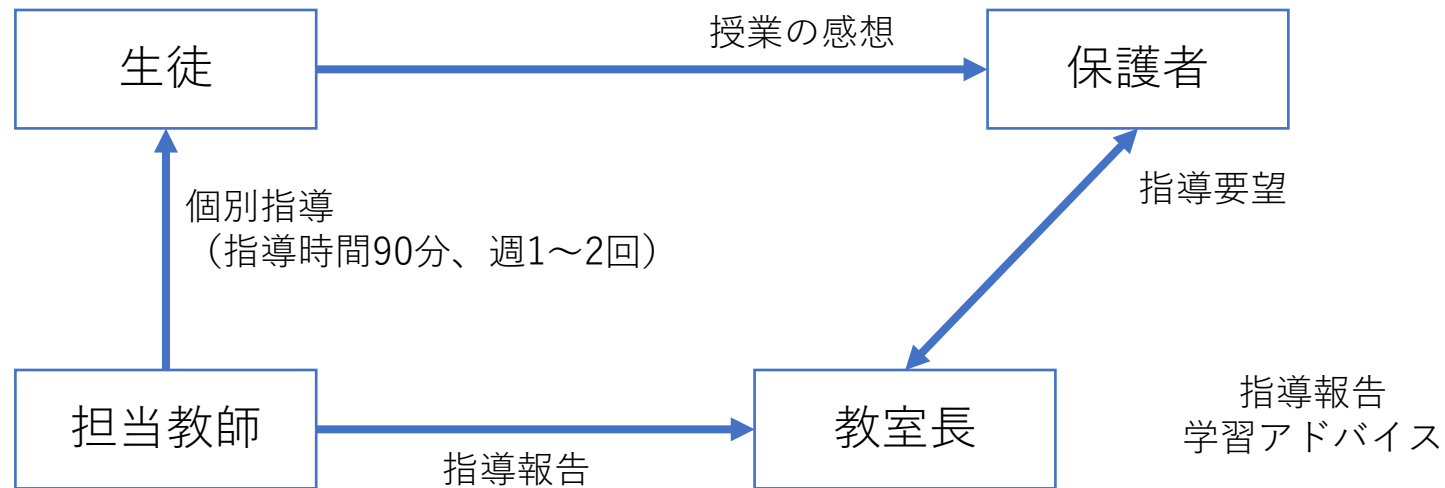
学習塾経営における  
IT技術を活用した  
これからの教育スキーム

2023年7月27日

株式会社アイヴィーズ

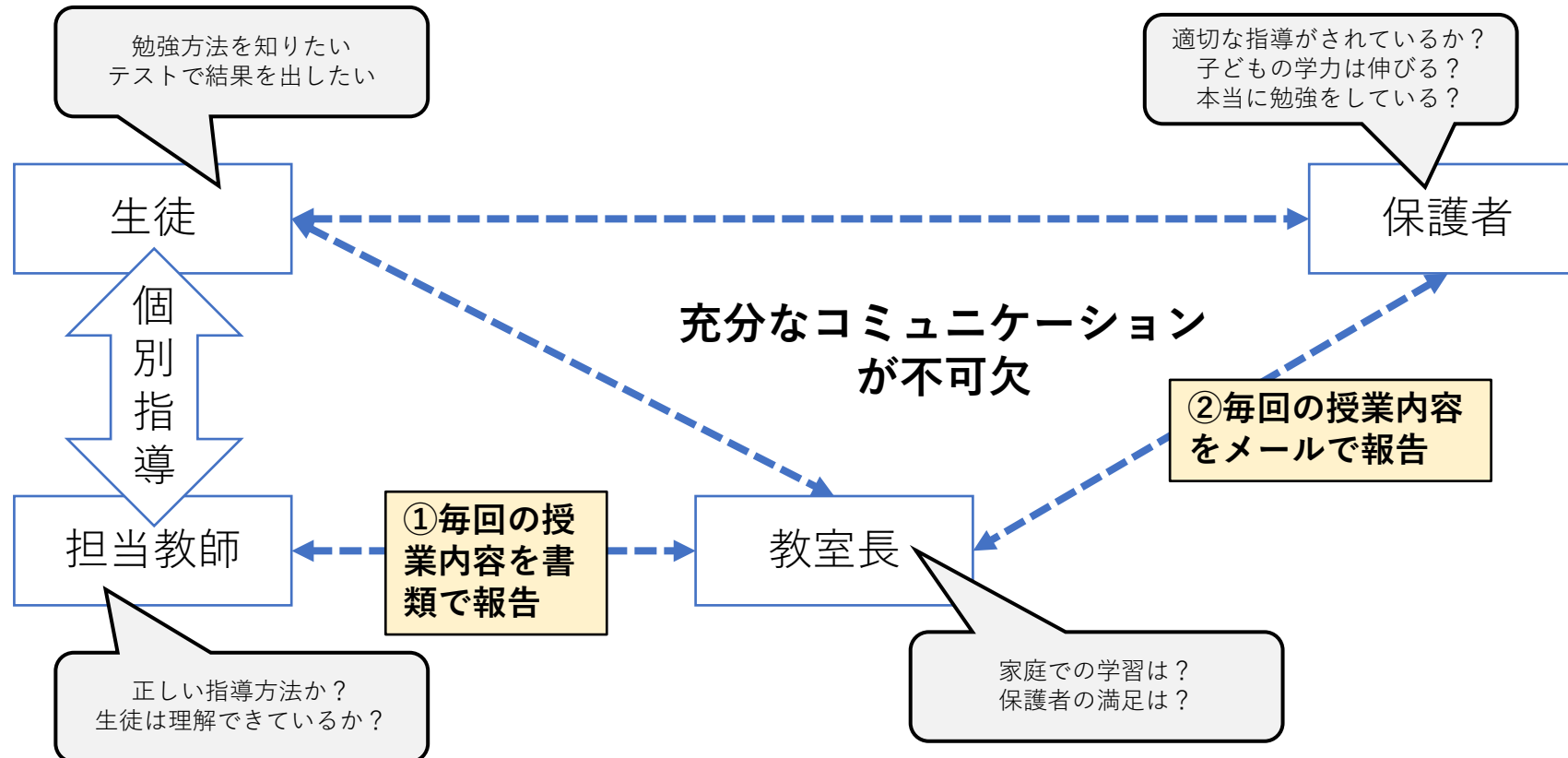
# 与件

- 弊社の個別指導システムにおいて、事業の目的は**保護者の満足**と考える。
- 保護者の満足は生徒の学力向上ではあるが、実感できるのは**学校の試験や受験などの結果のみ**である。
- 多くの保護者は指導内容を知らず、**学習塾に任せたまま**になりがちである。



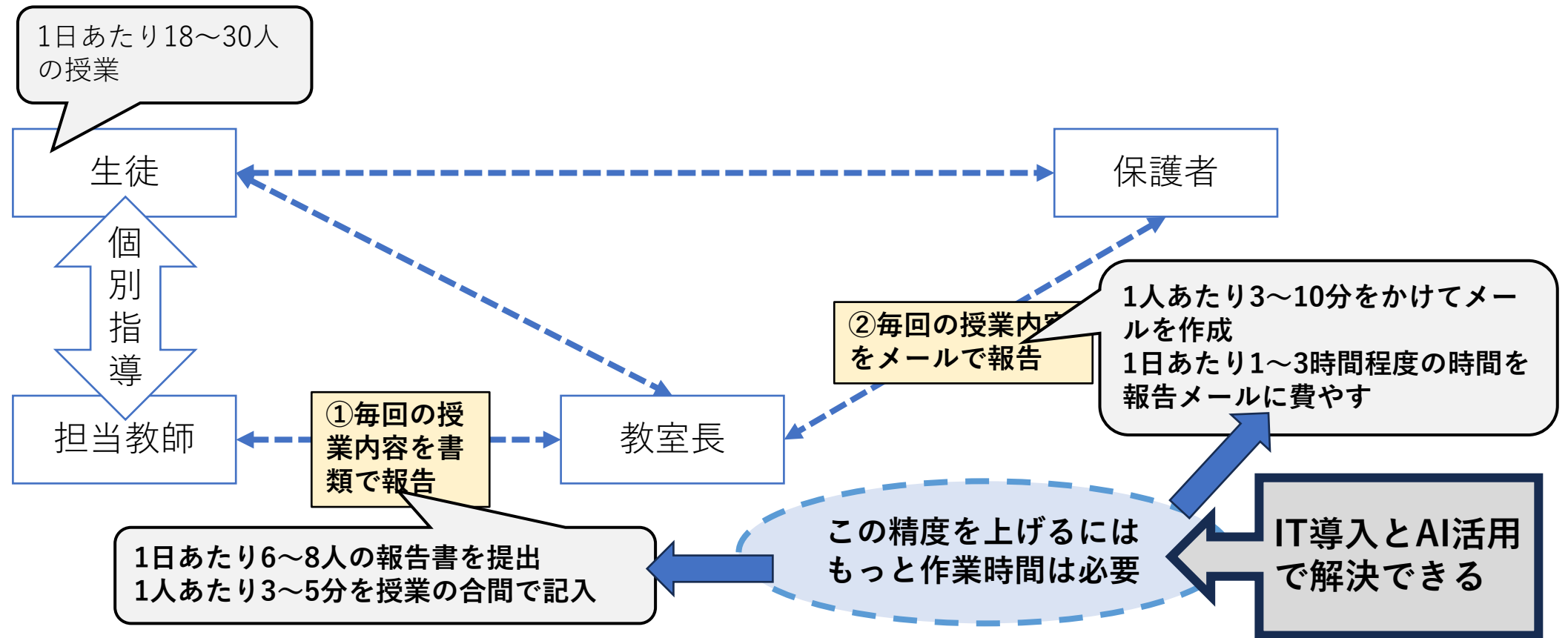
# 現状把握

- **保護者の満足**を追求するには、それぞれの不満疑問点を解消すべきである。
- そのため十分なコミュニケーションによる情報共有と、**学習塾と保護者が生徒を見守る体制作り**が必要となる。
- そのため弊社では以下の**①授業内容を書類で報告**、**②授業内容をメールで報告**の2点を徹底している。



# 課題

- しかし生徒が増えることで①授業内容を書類で報告、②授業内容をメールで報告の作業負担が増大しています。
- またそれぞれの精度を上げることが保護者の満足につながると考えます。
- そのため①②の精度をあげるには、IT化とAIの活用で解決できる。



# 問題解決

## • ①授業内容を書類で報告を解決

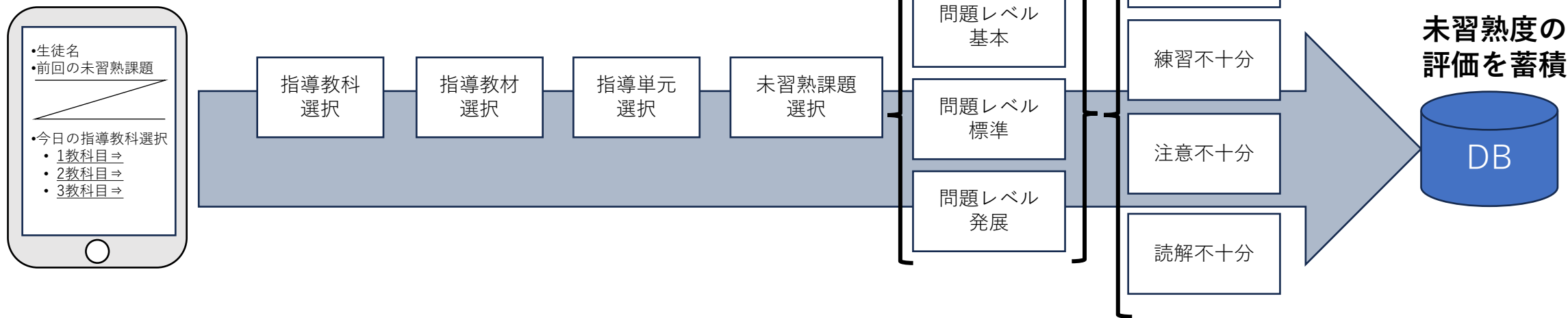
- 現状：個別指導の担当教師から、授業内容を書面で報告。
- 問題点：教師ごとの報告内容にバラつきがあり、指導成果の可視化がしにくい。次回授業への申し送りがしにくい。  
(例：生徒ごとに教材が違い、指導内容が報告しきれない。習熟度の評価が甘くなりがち。)
- 解決方法：タブレットなどで入力。**質問形式で未習熟度の評価を入力**することで、報告内容の均一化をはかり、生徒の学習状況を可視化しやすくする。  
(例：教材の明記。指導内容ごとにできなかった問題を記録することで、次回の授業内容を絞りやすい)
- 効果：**未習熟度の評価を蓄積**することで、**学習効果の可視化**ができる。AIへのプロンプト（作業指示）が作りやすくなる。

## • ②授業内容をメールで報告を解決

- 現状：担当教師の報告書から読み直しをして保護者へメールを送る。
- 問題点：報告内容には生徒の問題行動（居眠り、集中力の欠如）などまで書かれているので、そのまま保護者に送ると退会に繋がりがやすい。そのため表現を和らげながら、学習成果を強調したポジティブな文面に書き換えている。そのため1名あたり作文に3～10分程度の時間がかかる。
- 解決方法：①の**未習熟度の評価からプロンプト（作業指示）を作成**、AIサービス**ChatGPT**を活用して**指導文面を作る**。教室長が内容をチェックしてメールで送付する。プロンプトの作成までが自動化できれば、指導報告にかかる時間は**1～3分程度に圧縮**できる。
- 効果：**未習熟についての指導**になるので、家庭での**具体的な学習法も生成**できる。常に課題が明確になるので、勉強を細分化して取り組める。  
(例：英単語の覚え方、苦手な数学公式の練習問題を自動生成など)

# 解決案

## ① 授業内容をタブレットで報告



## ② 授業内容をAIで報告

未習熟度の  
評価を蓄積



# 将来像

- **保護者の満足**を追求することで塾の退会を防ぎ、経営としての安定化をはかる。
- 生徒の学習状況の共有と、**学習塾と保護者が生徒を見守る体制作り**を実現する。
- AIの活用により、指導スキルの向上と生徒学力の分析が可能となる。
- 指導スキームが確立することで、将来的に他の教室への技術提供も可能となり、**新たなビジネスモデル**となりえる。

